

Sai Wai

12月号

vol.08

December 10, 2011



川崎幸病院
044-544-4611(代)



川崎幸病院中原分院
044-433-4343(代)
044-433-4393(受診予約)



川崎幸クリニック
044-544-1020(代)
044-511-2112(受診予約)



さいわい鹿島田クリニック
044-556-2720(代)
044-556-2722(受診予約)

ご自由にお持ちください。

『病とともに生きる』 **1・2**
～知っているとな楽になる認知症と家族ケア～

糖尿病認定看護師コラム **3**
『そうだ笑顔でいよう!』 第8回

部署紹介「救急医療を支えるプロ集団!」 **4**
第8回: 医療相談科

栄養科便り **4**
『今月のレシピ』 第8回

皆様へのお知らせ **5**
『署名活動報告』 請願書のゆくえ・救急隊との意見交換会

『川崎幸クリニック リポート』 **6**

川崎幸病院 新築移転いたします!
『新病院の医療相談科』

12月の花：セイヨウヒイラギ
花言葉は
「永遠の輝き」「不滅の輝き」です

- ～石心会グループの理念～
- ・ 医学的根拠に基づく高度な医療
 - ・ 患者さん主体の医療
 - ・ 地域に密着した医療



21世紀型医療・福祉ネットワーク
石心会グループ

『知っているとな楽になる認知症と家族ケア』

～認知症でも人間性は失われません～

「認知症になったら何も分らなくなる」「人間性も失われる」と考える人は少なくないと思います。しかし、記憶障害、理解力・判断力の低下などがあっても、これまでの人生で培ってきた人との接し方や気配りなどは長く持ち続けるものです。認知症と診断されても、仕事を続けている人も、ブログを書いている人も、自らの体験を発表している人もいます。

■ 認知症を理解するために

私が工夫した「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」「家族のたどる心理的ステップ」などを知ること、認知症の人の世界や家族の変化がわかるようになります。認知症の人の「異常な言動」は決して異常ではなく、同じ状況になればだれもが行う言動にすぎないと知ること、介護する人の気持ちが変わります。

「9大法則・1原則」を見ていきましょう。

■ 第1の法則

第1法則は、「記憶障害に関する法則」。認知症の人の記憶障害には「記銘力低下」「全体記憶の障害」「記憶の逆行性喪失」と呼ぶ3つの顕著な特徴があります。「記銘力低下」とは、ひどい物忘れが起こることです。認知症の人が同じことを繰り返すのはそのたびに忘れてしまうからです。大きな行為そのものの記憶を失ってしまうことを「全体記憶の障害」と呼びます。「記憶の逆行性喪失」とは、記憶が現在から過去にさかの



ぼって失われていく現象。「その人にとっての現在」は最後に残った記憶の時点となります。

■ 第2の法則

第2法則「症状の出現強度に関する法則」とは、認知症の症状が、いつも世話してくれている最も身近な介護者に対してひどく出て、時々会う人、目上の人には軽く出ることをいいます。

■ 第3の法則

第3法則「自己有利の法則」とは、自分にとって不利なことは一切認めないで、認知症があるとは思えないほど、素早く言い返してくることをいいます。

■ 第4の法則

第4法則「まだら症状の法則」とは、常識的な人だったらしないような言動を認知症の人がしているため周囲が混乱しているときには「認知症問題」が発生しているのだから、その原因になった言動は「認知症の症状」とであるととらえます。

■ 第5の法則

第5法則「感情残像の法則」とは、感情の世界はしっかり残っていて、瞬間的に目に入った光が消えたあとでも残像として残るように、認知症の人がその時いだいた感情が相当時間続くことをいいます。認知症の人は感情が非常に鋭敏です。



公益社団法人認知症の人と家族の会副代表理事・
 神奈川県支部代表
 公益社団法人日本認知症グループホーム協会顧問
 川崎幸クリニック院長

杉山 孝博 医師

■第6の法則

第6法則「こだわりの法則」では、「あるひとつのことに集中すると、そこから抜け出せない。周囲が説明したり説得したり否定したりすればするほど、逆にこだわり続ける」という特徴がその内容です。

■第7の法則

第7法則「作用・反作用の法則」とは、「強く対応すると、強い反応が返ってくる。認知症の人と介護者の間に鏡を置いて、鏡に映った介護者の気持ちや状態が認知症の人の状態で、押してダメなら引いてみな!とするのがよい」というものです。

■第8の法則

第8法則「症状の了解可能性に関する法則」は、老年期の知的機能低下の特性や、第1～第7法則でまとめたような認知症症状の特徴、および認知症の人の過去の生活体験などを考慮すれば大部分の認知症の症状は十分了解できるものである、という内容の法則です。

■第9の法則

第9法則「衰弱の進行に関する法則」の内容は、「認知症の人の老化の速度は非常に速く、認知症でない高齢者の約2～3倍のスピードで進行する」というものです。

ホームページのご案内

認知症については、2009年4月から全国20地方紙に毎週連載したコラム「知ってますか?認知症」が、川崎幸クリニックのホームページ、「院長ご挨拶」の欄で閲覧・ダウンロードできます。ご興味ございましたらご覧下さい。



HOME > クリニック概要 > 院長ご挨拶



「認知症の人が形成している世界を理解し、大切にす。その世界と現実とのギャップを、感じさせないようにする」。これが「介護に関する原則」です。

■認知症になっても住み続けられる街づくりましょう

認知症の原因には、本年3種類の新薬が相次いで許可されたアルツハイマー型認知症、生々しい幻視・パーキンソン症状・認知障害が特徴的なレビー小体型認知症、社会的逸脱行為が目立つ前頭側頭型認知症、脳外科的な治療が有効な正常圧水頭症・慢性硬膜下血腫・脳腫瘍など様々です。治療方法についても考えます。

今日では、認知症の人が約200万人以上いると推定されています。つまり誰でも認知症になる可能性があるのです。認知症にならないため努力することはよいことですが、私は「認知症になっても住み続けられる街づくり」が最も大切だと思います。

病気と体の仕組みをより深く
理解していただくために。

糖尿病認定看護師コラム

『そうだ笑顔でいよう!』

第8回

そうだ来年も笑顔でいよう!



川崎幸病院 看護部
糖尿病看護認定看護師
原田 浩見

12月に入ると街はキラキラしたイルミネーションに包まれ、クリスマスソングがそこかしこから聞こえてきてなんだか幸せな気分・・・にはなってはいません。クリスマスソングがそこかしこから聞こえてきてとても忙しい気分になっています。

「年内に～しなければ」「年内に～片付けよう」「年賀状書かなきゃ」と結局何もせず年を越すはめになるのに気分が急いで仕方がないです。クリスマスのプレゼントを選んだりカードを書いたり楽しんでいた頃がなつかしい。(あの頃私は若かった)

●血糖コントロールが心配な12月

12月は別名を「師走」といいその語源は諸説ありますが、師匠も走るくらい忙しいという説が一般的でしょうか。たしかにこの時期はクリスマスをはじめ忘年会、お正月、新年会などイベントが多く忙しいですよ。

なので、糖尿病看護認定看護師はこの時期は気が気ではありません。飲み会や外食が増える、忙しい気分になってしまい治療や療養生活に集中できない、こたつにはいるとなかなか出られず活動量が減る、ミカン3個を一気に食べた、お正月はおせちとお雑煮を食べすぎた・・・などなど血糖コントロールが乱れやすい状況が多いからです。

食品エネルギー量豆知識

ミカン中くらいの1個＝約40Kcal

フライドチキン1本＝約200Kcal

切り餅1個(50g)＝約125Kcal

おせちの栗きんとん(栗2粒分)＝約170Kcal

クリスマスだからって、お正月だからって治療は変わりませんよ!気をたしかにもってくださいね!とお話して院内を歩いています。

食べてはいけないとは言いません。食べる物のエネルギー量を知ること治療につながると思います。情報を得ることも大切なのですよね。知りたい情報があれば私がお答えしますので気軽に声をかけてくださいね。

●夢を買う宝くじ

情報と言えば年末ジャンボ宝くじの購入は12月22日までですが、みなさん購入されましたか?「当たったためしがない」なんて言わず夢を買いましょ。当然のことですが買わないと当たりませんからね。

●今年もお世話になりました

2011年は日本中に衝撃と悲しみが走った年でした。来年は、悲しみを乗り越えた強い気持ちが笑顔となってあふれる年であることを願っています。私も日々の看護で、このコラムでみなさんの笑顔を支えていきたいと思っています。

「そうだ来年も笑顔でいよう!」

●腹膜透析外来看護師よりワンポイントアドバイス

腹膜透析とは、お腹の中に透析液を入れ腹膜を通じて水や老廃物を取り除く、主に在宅で行われる治療です。当院では約40名の患者さんが腹膜透析を行っています。外来ではお腹の処置や自己管理についてお話をしますが、いつのまにか



川崎幸病院
腹膜透析外来看護師
土屋 直子

「おしゃべりタイム」になっていたりします。長きにわたる療養生活の中ではつらかったり、苦しかったり、うれしいこともあるでしょう。患者さんが色々な思いを話せる「おしゃべりタイム」も看護かな・・・と思う今日この頃です。

認定看護師とは：日本看護協会の試験に合格し、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた看護師のことです!

当院には、感染対策、糖尿病、透析看護の認定看護師が働いていますよ!

川崎幸病院 看護部長:佐藤 久美子



救急医療を支えるプロ集団【第8回】

川崎幸病院 医療相談科：

心から安心して、笑顔で退院されるように

●ご不安を和らげることが私たちの仕事です

医療費のお支払など入院中のご不安はもちろん、退院後の生活面のご相談、社会保障制度ご利用のご説明など、患者さんご家族のかかえる医療上・生活上のさまざまなご不安にお応えしています。



●退院後の生活を一緒に考えましょう

ご入院後、比較的早い段階から患者さんのもとの伺い、退院後の生活について患者さんと一緒に考えています。患者さんご病気の状態を考慮しながら、患者さんそれぞれのご家庭の状況、患者さんご家族の考えをお聞きし、適切な退院後の



生活を実現できるように取り組んでいます。

●地域との連携を大切に

患者さんのご退院時には、患者さんのかかりつけのお医者さん、地域の訪問看護・訪問介護のスタッフの方々に、事前に患者さんの状態などを詳しくお伝えしています。退院後に患者さんと接する方々と情報を共有することで、患者さんが安心してご自宅で療養できるように考えております。



●地域の皆様へ

退院後の不安が取りのぞかれ、笑顔でご自宅にお帰りになれるように願っております。お気軽にご相談下さい。



今月のレシピ!【第8回】 「栄養のプロ」のヘルシーレシピ

～ベストな素材の組み合わせ～

カキとほうれん草の ミルクスープ

栄養成分：1人前

エネルギー	150kcal
タンパク質	6.7g
塩分	2.3g

<作り方>

- 1.カキは水でよく洗います。
- 2.ほうれん草はさっとゆでて3cm位の長さにカット。しめじはほぐし、玉ねぎはスライスします。
- 3.鍋にバターを入れて熱し、玉ねぎとしめじを入れてしんなりするまで弱火で炒めます。
- 4.水と牛乳、固形スープの素を加え、沸騰したらカキを入れます。
- 5.カキに火が通ったら（加熱しすぎに注意）、ほうれん草を加え、ひと煮立ちしたら塩とこしょうで味を整えてできあがりです。 **完成!**

川崎幸病院
管理栄養士
田内 直恵



栄養のプロのワンポイント

材料(2人前)

カキ	100g
ほうれん草	50g(2株)
しめじ	50g(1/2パック)
玉ねぎ	40g(1/4個)
バター	8g(小さじ2)
水	200cc(1カップ)
牛乳	200cc(1カップ)
固形スープの素	5g(1個)
塩	0.5g(ひとつまみ)
こしょう	少々

カキは「海のミルク」と言われるほどカルシウムや鉄分、亜鉛などのミネラル類を豊富に含んでいます。特に亜鉛はわずか3個で1日に必要な量が摂れます。亜鉛は味覚を正常に保ったり、美肌づくり、免疫機能の向上に役立つ栄養素です。ほうれん草はカロテン、ビタミンC、葉酸、ビタミンK、カリウムを豊富に含みます。カキとビタミンCが豊富なほうれん草を組み合わせることで鉄分、カルシウムの吸収もよくなり、まさにベストな組み合わせです。



Topics 1

～請願書のゆくえ～

健康福祉委員会傍聴記

11月16日、「幸区町内会連合会の請願書」の審議が健康福祉委員会にて行われました。結果は採択にならず、全会一致で継続審議となりました。継続審議の場合、本当に再度審議される保証はありません。事実上の不採択と考えたほうが良いでしょう。

■やはり幸区の住民が犠牲になっていた。

平成23年川崎市消防局作成データより

幸区は発生区以外への救急搬送率が57.9%と南部医療圏の他区に比べ圧倒的に高いのです。(川崎区20.7%、中原区35.6%)

■救急搬送の遅れは療養病床を増やしても解決しない。

席上、議員の「療養病床を増やせば、救急搬送の遅延は解決するのか?」との質問に、川崎市当局は、療養病床を増やしても救急搬送の遅延問題は解決しないことを当然のことながら初めて

公に認め、救急病床を増やすことが本道であることを表明しました。

しかし、当日の健康福祉委員会は全体として発言内容も低調であり、継続審議になった理由が市長の諮問機関である川崎市地域医療審議会が継続審議中だからということですが、行政が検討中だから議会が口をはさめないというのは議会の存在意義を否定する事であり、行政の対応と共に、議員さん達の態度にも大いに疑問を抱かざるを得ない結果でした。

82,735人の地域の民意がかくも軽くあしらわれるのかと多くの傍聴者が憤慨しているのを目撃しました。



Topics 2

救急車の受け入れをよりスムーズに救急隊との意見交換会

川崎市消防局から救急課長・係長・主任の方々、川崎・幸・中原・宮前の各消防署からは救急係長・救急隊長の方々に当院にお越しいただき、意見交換会を行いました。



■川崎市が抱える救急問題

救急車が患者さん宅に到着してから、受け入れ先の病院が決まるまでの時間が30分以上かかった件数が、川崎市は3年連続で政令指定都市中ワーストワンとなっています。今回の意見交換会でもこの事態を少しでも改善すべく、救急隊と病院との建設的な意見の交換がなされました。

■救急隊と病院との相互理解を深めて

救急の現場は「1分1秒」を争います。救急隊の立場から、病院の

立場からの率直な意見を交わし合い、相互理解を深めていくことで、よりスムーズな救急受入体制をつくっていきたいと考えています。

■新病院は救急受入体制を拡充します

救急救命室(ER)の設備拡充、手術設備の大幅拡充など、新川崎幸病院は救急車の受入体制のより一層の充実を図っていきます。これからも救急隊との連携をより強化し、地域の皆さんが安心して生活できるようにスムーズな救急車受入に取り組んでいきます。

川崎幸クリニック：「コスモス友の会」

～糖尿病患者会～のご案内

コスモス友の会は、1974年に川崎幸病院で発足した「糖尿病の患者会」です。現在会員は20名ほどで、当院スタッフとともに食事会や勉強会、「歩こう会」などの活動をしています。

11月12日の会の様子をお伝えします

●勉強会：安島医師から ～糖尿病は骨折の危険性が高い!?～

寝たきりになる原因のひとつに「骨折」があります。実は、糖尿病の方は骨折の危険性が高いのです。鉄筋コンクリートに例えると、骨は「カルシウムとリンというセメントがコラーゲンという鉄骨にくっついて出来ている」ものです。血糖が高いとコラーゲンの質が悪くなり、骨のしなやかさが失われ骨折しやすくなるのです。骨折を予防するためにも、日光浴、バランスの良い食事、運動が大切です。



●食事会：食事について、楽しみながら勉強しました

当院管理栄養士と交え、食事をいただきながら、バランスのよい食事の採り方などを話し合いました。食べ方にもコツがあり、野菜類を食べてからご飯を食べると血糖の上昇が緩やかになります。また、日頃の生活習慣の改善などにお互いにアドバイスを出し合うなど、有意義なひとときとなりました。



【ご興味をもたれた方は】

当院糖尿病科看護師までお気軽にお問い合わせ下さい。同じご病気を抱える方同士で情報交換する場はなかなかないですね。コスモス友の会は貴重なコミュニケーションの場になるのではないかと思います。



川崎幸クリニック
看護師・糖尿病療養指導士：
小林 清香

川崎幸クリニック：訪問看護

住み慣れた場所での療養を支援します

退院後、ご自宅での療養を選ばれる方もいらっしゃいます。訪問看護では、在宅療養中の患者さんのご自宅を訪問し、点滴、鼻や胃に入っている管の管理、床ずれなどの医療処置や日常生活の介助などはもちろん、介護相談などにお応えしております。

●皆さまの支えになれば

最初は、だれもが在宅療養に不安を感じておられますが、在宅療養中の患者さんやご家族からは、「在宅療養を選んでよかった」との声を多くいただきます。より多くの方々が、在宅療養を選ばれたことにご満足いただけるように、医師・ケアマネジャー・介護ヘルパーなどと連携して「皆さま



の支えになれば」と日々お宅に伺っております。

●自分の時間をお持ちになれるように

患者さんを看られるご家族の方も「自分の時間」をしっかりとつくり出すことが大切です。デイサービスやショートステイなどの介護サービスをうまく利用して定期的に自分の時間をつくりましょう。ご自身だけですべてを抱え込まないように、柔軟にお考えいただくことが大切です。



●このような方はご相談下さい

- 病気や障害があるが自宅で療養したい
- 退院後の自宅での療養が心配
- 看護・介護の方法がわからない
- 自宅で最後を迎えたい



Building Status Report Vol.08

新川崎幸病院の医療相談科

～新川崎幸病院の医療相談科が目指すもの～

●より患者さんに身近な医療相談を

新病院では、各病棟フロアに医療相談科のスタッフを配置し、より患者さんのそばでご相談にお応えできるようにしていきます。また、新病院は「救急外来の拡充」と「外来透析治療の開始」により、外来の患者さんが増えていきます。入院患者さんに限らず、「外来患者さん」とも早期に関わり、生活面でのサポートをしていきたいと思えます。

●退院後の生活をイメージできるように

当院では、在宅療養に力を入れています。例えば、脳神経外科病棟全体の取り組みとして、患者さんとご家族にご協力いただき、退院後の在宅療養の様子を、お写真や体験談などを交えた「冊子」にまとめています。入院中の患者さんやご家族がこの「冊子」をご覧になることで、ご自身の退院後の生活のイメージがわき、不安の軽減につながるのではと考えています。

●「患者さんを支える地域ネットワーク」をつくっていきます

当院では、医師、看護師、各医療スタッフが丸となって連携し、患者さんの情報を共有しながら、退院までのサポートをしています。しかし「病院だけでは医療は完結しません」。退院後の患者さんの生活を支える方々（かかりつけ医、訪問看護師、介護施設など）とも十分に連携をとる必要があります。当院では、地域で介護を支えるケアマネジャーの方々との意見交換会を定期的開催し、有意義な情報交換をしています。「患者さんを支える地域ネットワーク」の構築に積極的に取り組みたいと思えます。



在宅療養の様子をまとめた冊子



ホームページのご案内

皆様のお役に立てるよう頑張っています、ぜひ見に来てください！

川崎幸病院・中原分院・川崎幸クリニックの各施設も幸病院のTopページからも各施設へ移動できます。※「さいわい」のバックナンバーをホームページでも公開中！

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております！ お気軽にご連絡下さい。

TEL.044-511-2266 広報室 西山宛

幸病院

検索